



苦しくて涙が出ても、きっと笑顔になれるよ

NPO あいち障害者センター 近藤直子

「新人時代」がありました

新たに就職されたみなさん、ワクワクとドキドキ、どちらの方が大きいですか。人によってちがうワクワクとドキドキの割合。ドキドキの方が大きくなると、思わず涙が出たり、出勤するのが嫌になったりすることも。そんなときは無理せず、周りの人を頼ってください。

私自身は日本福祉大学に、9月1日という少し変わった時期に一人だけ採用されたので、辞令交付式も形だけで、本格的な新人歓迎会は教職員組合に開催してもらいました。年度途中採用で一番若くて、しかも女性ということで何かにつけ目立つたようで、教授会で新人なのに平気で発言することや、Tシャツと綿パンという服装について、先輩教員に注意されたりしましたが、目立つがゆえに同世代の事務職員さんたちが声をかけてくれ、組合室で職員さんたちとおしゃべりして、先輩教員への憂さを晴らしていました。

私は思いついたらすぐ行動に移すタイプなので「じっとしていいない」と思われているかもしれません、保健センターや保育園での発達相談の際には、まずはじっくりと子どもを観察しています。観察するから気づくことがたくさんあります。どういう場面でイライラし始めるのか、どういうことが好きで、どういう時に良い表情を見せるのか、その気づきを保護者や保育者と共有することで、子どものかわいさに気づくと保護者は安心し、保育者は「こんな活動にもとりくんでみたい」とアイデアを膨らませていかれます。のたりのたりとのんびり過ごしているように見えていても、動いている人には見えにくいものに気づいている職員もいるかもしれません。観察タイプ、行動派、癒し系など、職員もそれぞれステキな持ち味をもっていることを活かし合う、そんなチームワークが大事な、一呼吸ついて、自分の持ち味、チームの仲間の持ち味、どう活かし合つてのか考え合えると楽しいですよね。管



「ええかげん」に生きる

理職のみなさんは、そうした職場づくりをめざしてみてはいかがでしょうか。

50歳を迎えたころから、卒業するゼミ生へのはなむけの言葉として「ええ加減に生きや」と書くことが増えました。「ええ加減? そんないい加減なことでいいの」と思われるかもしれません、「ええ加減」とは「自分にとつてのよき加減」のこと。若いうちは周りの期待や評価が気になり、私も「研究をがんばらな

ど、だからまた声を掛けてくれる人もたくさんいるのです。新人はみんなが「若葉マーク」。わからないこと、できないことがあるのは当たり前。そういう時は「ヘルプミー」すればよいのです。「ヘルプミー」に応えてくれる仲間や先輩と共に、わからないこと、できないことを語り合い考え方を学ぶ職場だとステキです。

「春の海 ひねもすのたりのたりかな」の心境で

昨年度の仕事が今一つだったと感じている人の中には「今年度こそ」と張りきっている人がいるかもしれません。でも張りきりすぎると、自分も周囲も振り回すことになつたりします。春は「春眠曉を覚えず」と詠まれたように、新たなことにとりくみ新たな関係に入ることで疲れが出やすく、眠気が誘発される時期でないと「よき加減」で生きることができます。障害乳幼児にかかる職員と保護者の組織化を進めることが私には合っていると、40歳台以降、自分がしたいことを基本に据えて生活しています。自分が求めていること、自分がしたいと思っていること、そのことを識つて、自分にとっての「よき加減」で生きることが、長い人生を無理なく送るうえで大切だなあと実感しています。そのためにも、チームの中で自分の持ち味を見直してみたいですね。

突っ走りがちな私にとつての心地よいブレーキだった夫が亡くなつて16年。今でも夫のことを思うと涙が出てきますが、教え子さんたちが私のことを気にかけてくれていることに感謝しています。私が支えたつもりでいた教え子さんが私を支えてくれていることを、同窓会や講演会で会うたびに実感し励まされています。「支え支えられる」人とかかわる仕事のステキさを、みなさんにも感じてほしい。だから自分も周りも無理のない「ええ加減」を求めていってくださいね。

(こんどう なおこ)

「新人時代」にもありました

新規に就職されたみなさん、ワクワクとドキドキ、どちらの方が大きいですか。

か。人によってちがうワクワクとドキドキの割合。ドキドキの方が大きくなると、思わず涙が出たり、出勤するのが嫌になつたりすることも。そんなときは無理せず、周りの人を頼ってください。

私自身は日本福祉大学に、9月1日といふ少し変わった時期に一人だけ採用されたので、辞令交付式も形だけで、本格的な新人歓迎会は教職員組合に開催してもらいました。年度途中採用で一番若くて、しかも女性ということで何かにつけ目立つたようで、教授会で新人なのに平気で発言することや、Tシャツと綿パンという服装について、先輩教員に注意されたりしましたが、目立つがゆえに同世代の事務職員さんたちが声をかけてくれ、組合室で職員さんたちとおしゃべりして、先輩教員への憂さを晴らしていました。

何事にもプラスとマイナスがあるもの。新人は何かにつけて目立つから、評価や批判のまなざしにもさらされるけれど、組合室で職員さんたちとおしゃべりして、先輩教員への憂さを晴らしていました。

わからぬこと、できないことがあるからこそ、新入児や新しい利用者さんの不安な気持ちに共感しやすいともいえるし、その体験を整理し振り返ることで、来年、新たな出会いをよりステキに迎えられるのだと思えば、不安の中に希望の光が見えてきませんか。

葉マーク。わからないこと、できないことがあるのは当たり前。そういう時は「ヘルプミー」すればよいのです。「ヘルプミー」に応えてくれる仲間や先輩と共に、わからないこと、できないことを語り合い考え方を学ぶ職場だとステキです。